



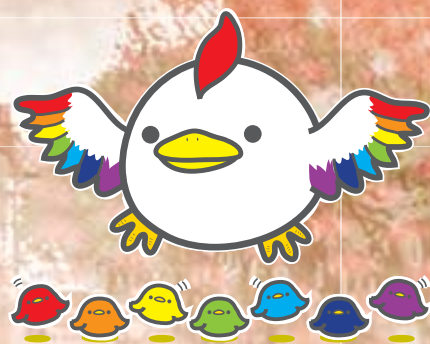
創立1961年・高実績と信頼の  
ライセンススクール

*LICENSE GUIDE*

# 土地家屋 調査士

ホームページ

<http://www.thg.co.jp/>



東京法経学院

# \*土地家屋調査士試験について

土地家屋調査士試験は、午前の部の試験、午後の部の試験、口述試験の3段階で実施されます。建築士、測量士、測量士補の合格者は、午後の部の試験が免除されます。

## 土地家屋調査士試験の流れ

5 MAY

願書の配布

例年5月上旬から全国の法務局又は地方法務局で配布されます。遠方の方は、郵送で願書を取り寄せることも可能です。

6 JUNE

願書の提出

例年5月下旬から2週間が願書の提出期間です。この期間内に受験希望地を管轄する法務局又は地方法務局へ願書を提出してください。なお、午後の部の試験免除者であることを証するため、測量士補や建築士の合格証書等の添付が必要となりますので、忘れないようにしましょう。

7 JULY

午前  
午前の部の試験

午後  
午後の部の試験

筆記試験

試験問題は、試験時間終了後、持ち帰ることができます。ただし、途中で退出する場合には、持ち帰ることができません。

9 SEPTEMBER

例年8月の第4日曜日に筆記試験が実施されます。午前の部の試験は午前中2時間30分で実施され、択一20問と書式2問がその内容です。同日午後から午後の部の試験が実施されますが、もちろん免除者は受験する必要がありません。

10 OCTOBER

筆記試験合格発表

例年10月下旬に筆記試験の合格発表が行われます。合格者には口述試験の受験票を兼ねた合格通知書が送付されます。

筆記試験の結果発表の際に、多肢択一式試験については正解番号を、記述式試験については出題の趣旨が公表されます。なお、筆記試験の不合格者のうち希望者に対して成績通知が実施されます。

11 NOVEMBER

口述試験

例年11月上旬に口述試験が実施されます。試験官と対面で行われる口頭試問です。

12 DECEMBER

最終合格発表

最終合格発表は12月中旬に官報に公告することによって行われます。また、合格者には合格証書が送付され、その後登録等の手続きを経て、晴れて土地家屋調査士となるわけです。

## 土地家屋調査士

大きなプロジェクトの実現にも  
小さなトラブルの解決にも  
求められるのは

1 正確な知識

3 公正な判断

2 高度な技術

土地家屋調査士は、土地、家屋の規模・現状について、正確に調査・測量し、登記申請の業務を行う専門家です。境界確認の唯一の専門職として、境界に関するトラブルの解決にも貢献しています。また、課税行政の資料の作成にも関与し、今後は、国土開発の分野でも大いに活躍できる公共性の高い仕事です。

### 1. 調査・測量

土地や家屋について、登記簿の「表題部」に表示すべき事項〔土地の場合…所在、地番、地目、地積、所有者の住所、氏名、持分など。建物の場合…所在、地番、家屋番号、種類（用途）、構造、床面積、所有者の住所、氏名、持分など〕についての調査・測量を行います。

### 2. 登記の申請及び審査請求の手續

申請書類の作成、及び調査・測量に関する審査請求の手續を代行します。

### 3. 付随業務

上記の業務を遂行するのに必要な業務、例えば登記申請書の作成代行、土地境界の確定に関する業務、境界標の設定指導なども行います。

### 筆記試験(午前の部・午後の部の試験)

【受験資格】: 年齢・性別・学歴等に関係なく誰でも受験できます。

【試験日】: 年1回8月の第4日曜日

【受験地】: 全国9都道府県にて実施されます。

【試験科目】: 午前の部の試験(法規科目)  
多肢択一式20問  
(民法、不動産の表示に関する登記、調査士法)  
記述式2問  
(土地、建物、区分建物)  
午後の部の試験(測量科目)  
多肢択一式10問(平面測量)  
記述式1問(作図、計算)

【受験手續】: 受験申請書・写真票・受験票・収入印紙等を、筆記試験を受験しようとする試験会場の所在地(受験地)を管轄する法務局・地方法務局の総務課に持参または郵送。例年6月中旬締め切り。

【合格発表】: 例年10月下旬受験地の法務局・地方法務局に掲示されるほか受験生に通知されます。

【合格ライン】: 午後の部…多肢択一式については50点満点(1問2.5点)で、記述式については2問で50点満点で採点。平成20年度は、満点100点中73点以上が合格ライン。多肢択一式50点満点中35.0点、記述式問題50点満点中31点にそれぞれ達しないものを足切りラインとしている。

### 口述試験

【受験資格】: 8月に実施された筆記試験に合格した方

【試験日】: 例年11月上旬

【受験地】: 各試験場の所在地(受験地)を管轄する全国8カ所の法務局で実施されます。

【出題範囲】: 土地家屋調査士の業務を行うのに必要な一般常識。特に不動産登記・土地家屋調査士法の出題が中心です。

【最終合格発表】: 例年11月下旬に発表。最終合格者は官報に公告されるほか、筆記試験の受験地を管轄する法務局または地方法務局に掲示されます(法務省ホームページにも合格者の受験番号を掲載)。なお、本人には土地家屋調査士試験合格証書が交付されます。

### 試験の特色

1. 測量士、測量士補、建築士などの有資格者は、午後の部の試験(測量科目)が免除になります。
2. 無資格で調査士をめざす人は、まず測量士補の資格(5月)を取り、その後土地家屋調査士筆記試験(8月)を受験するのが有利です。
3. 午前の部の試験の択一の得点が、一定の基準以下の人に対して、足切りが行われ、基準以上の人に対して記述式の採点がされます。



# 短期集中型の学習システム

通学講座 通信教育 の標準カリキュラム

合理的な標準カリキュラム、初心者の方も納得の理解型講義、本試験を知り尽くしたオリジナル教材...すべては「短期合格」のため!!通信教育『最短合格講座』でも、通学講座『本科』でも同一教材・同一カリキュラムで学習できます!

# 最大限の効果を発揮する!!

合格を追求した標準カリキュラムだから、通学でも通信教育でも土地家屋調査士資格が間近に見えてきた...!!



## 標準カリキュラムの学習内容

基礎力を養成する、東京法経学院の学習システム

回数	実施科目	回数	実施科目
1	調査士試験に必要な数学 - 1	2	調査士試験に必要な数学 - 2
3	求積 - 1	4	求積 - 2
5	求積 - 3	6	求積 - 4
7	作図の方法 - 1	8	作図の方法 - 2
9	民法 - 1	10	民法 - 2
11	民法 - 3	12	民法 - 4
13	民法 - 5	14	民法 - 6
15	民法 - 7	16	民法 - 8
17	民法 - 9	18	民法 - 10
19	総論 - 1	20	総論 - 2
21	総論 - 3	22	総論 - 4
23	総論 - 5	24	総論 - 6
25	総論 - 7	26	総論 - 8
27	土地 - 1	28	土地 - 2
29	土地 - 3	30	土地 - 4
31	土地 - 5	32	建物 - 1
33	建物 - 2	34	建物 - 3
35	建物 - 4	36	建物 - 5
37	区分建物 - 1	38	区分建物 - 2
39	区分建物 - 3	40	区分建物 - 4
41	区分建物 - 5	42	区分建物 - 6
43	区分建物 - 7	44	区分建物 - 8
45	区分建物 - 9	46	土地家屋調査士法

### 通信教育

教材タイプ (印刷教材のみ)  
DVD付タイプ  
ダウンロードタイプ

初心者

### 最短合格講座 (本講座は、本試験に必要な知識を修得します) 選べる3タイプ

#### STEP1

「合格ノート」で基本知識の修得を図ろう!

“合格”のためだけに作られた通信教育・通学講座で使用するオリジナル教材。試験内容を熟知したスタッフと本試験に精通した一流講師陣が総力をあげて作りあげた合格のための必須アイテムです。

#### STEP2

「合格ノート」のDVD講義で重要なポイントを学ぼう!

臨場感あふれるムダのない効率のよい講義を実現。見やすく理解しやすい、DVD講義ならではの効果で、わかりやすく、知識がスムーズに吸収できます。

#### STEP3

「合格データベース」で理解度チェック!

合格データベースは、過去40年間に及ぶ本試験問題を条文別に全て整理し、どこから、どのような形で、どの程度出題されているのがひと目でわかるように構成した受験界初の画期的教材です。

#### STEP4

[提出課題]で本試験レベルの総合力の養成を図ろう!

提出課題は本試験レベルの問題で構成されていますので、学習のまとめに最適です。また、答案返却時にお届けする「解説編」で知識の総整理を図り、合格を確実なものにします。

### 通学講座

東京本校 / 横浜会場  
名古屋校 / 大阪校  
高松会場 / 福岡校 / 鹿兒島会場

初心者

### 本科 (初心者にも納得できる理解型講義で短期合格をめざします) 土曜・日曜・平日(夜)クラス

#### 調査士試験に必要な数学

数学を苦手にしては、土地家屋調査士試験の合格は絶対にありえません。学習上最低限必要な数学をわかりやすく説明し、スムーズに知識の定着を図ります。

#### 求積

面積を求める際に数学的要素が必要となりますが、要求されている数学の知識は非常に限られた範囲のものだけで、パターン化することが可能です。数学に苦手意識を持っている方にも、パターンの理解で簡単に求積ができるようになります。

#### 民法

民法の出題は3問あり、意思表示に関する基本的な問題のように、条文レベルで理解しておけばよいものと、民法物権編・所有権・共有からの出題のように、判例まで学習しておくべきものなど、民法を受験科目のひとつとしてポイントを押さえながら理解していきます。

#### 土地家屋調査士法

土地家屋調査士として守らなければならない規定、及び手続や調査士の会則、調査士の法人化などについて学習を進めます。

#### 作図の方法

作図は誰にでもできます。決して難しいものではありません。土台さえしっかりしていれば、あとは「習うより慣れる」です。実力アップの近道は、理屈抜きに何度も練習することです。「より正確にスピーディに...これが合格への第一歩です。」

#### 表示登記理論 総論・各論

不動産に関する登記(土地・建物・区分建物)についての基礎知識の学習を目標として、登記制度の手続きの基本的事項について確実に身につけていきます。

#### 表示登記理論・書式

本試験で出題される登記申請書及び添付図面を、正確にスピーディに作成するためのテクニックを磨いていきます。良質の問題を用いて「土地」「建物」「区分建物」ともに実力完成を図ります。

### 多数の合格者を輩出する名門講座

回	択一の出題分野	書式の出題分野		
		土地	建物	区分
1	民法・表示登記(総論)			
2	民法・表示登記(総論)			
3	民法・調査士法・表示登記法(総論)			
4	表示登記(土地)			
5	表示登記(建物)			
6	表示登記(区分建物)			
全日本公開模試(実力診断模試)		混合2問		
7	総合テスト	混合2問		
8	総合テスト	混合2問		
9	総合テスト	混合2問		
10	総合テスト	混合2問		
11	総合テスト	混合2問		
12	総合テスト	混合2問		
全日本公開模試(直前実戦模試)		混合2問		

実戦答練は、通信教育でも通学講座でもOK!  
例年4月上旬より順次開講!

#### 通学講座

- 仙台会場・東京本校・横浜会場
- 大宮会場・千葉会場・名古屋校
- 大阪校・福岡校・高松会場
- 広島会場・静岡会場・鹿兒島会場
- 熊本会場・神戸会場・京都会場

#### 通信教育

- 教材タイプ (印刷教材のみ)
- DVD付タイプ
- ダウンロードタイプ

ガンバレ!! 受験生!!

いよいよ本番!! **本試験受験** 例年8月の第4日曜日

各講座案内は別途に案内書をご請求ください。(無料)

通信教育 03-3371-2741 東京本校 03-3371-2741  
名古屋校 052-583-1161 大阪校 06-6373-1401  
福岡校 092-751-5866

高実績と信頼 大人が選ぶ LICENSE SCHOOL  
**東京法経学院**  
ホームページ <http://www.thg.co.jp/>

# 平成20年度 土地家屋調査士試験 合格者

平成20年度土地家屋調査士試験合格者が発表されました。(合格者488名 / 受験者6,074名) 平成20年12月2日:法務省発表  
下記表に印のある方は東京法経学院の = 講座受講生 = 短期講座受講生 = メディア教材、書籍等で学習し合格された方です。

## 東京法経学院 合格者輩出実績

326名	66.8%	75.6%	84.2%
43名	8.8%		
42名	8.6%		



但し 印は当学院より直接購入いただいた方のみの方の数字で、書店等で購入の方は含まれておりません。  
官報に掲載された受験地と受験番号を表示しており、氏名は個人情報保護の観点から省略させていただきます。

受験地 [東京]	受験地 [名古屋]	受験地 [広島]	受験地 [札幌]	受験地 [高松]	受験地 [那覇]	受験地 [福岡]	受験地 [仙台]
● 5450 ● 5998 ○ 7104 ○ 5324 ● 5173	○ 5012 ○ 5528 ○ 5070 ○ 5025 ● 5176	○ 5012 ○ 5528 ○ 5070 ○ 5025 ● 5176	○ 5012 ○ 5528 ○ 5070 ○ 5025 ● 5176	○ 5012 ○ 5528 ○ 5070 ○ 5025 ● 5176	○ 5012 ○ 5528 ○ 5070 ○ 5025 ● 5176	○ 5012 ○ 5528 ○ 5070 ○ 5025 ● 5176	○ 5012 ○ 5528 ○ 5070 ○ 5025 ● 5176

# 学習のポイント

本試験では計20問の択一問題が出題されます。出題のスタイルとしては、正誤問題だけでなく、個数問題や組合せ問題といった形式で出題されることもあるため、「どこまで理解しているか」が問われると考えてよいでしょう。

## 択一

択一問題に関して注意すべき点は、  
足切り科目として、受験生の絞り込みに利用されている。  
合格には8割正解することが希まれる。  
書式問題の解答時間を考えると、30~40分前後で解答する必要がある。  
本試験でこの3点をクリアするためには、  
**原則 表示登記理論の全体構造をまず把握する。**  
**原則 制度趣旨や立法趣旨から、条文・先例を徹底理解する。**  
**原則 条文・先例と準則・細則・施行令を関連させて理解する。**



本学院では、この「択一3原則」に基づいて、試験に要求される知識とその活用法を徹底的に講義し、択一科目の短期克服をめざします。

## 書式

本試験では、択一問題の他に書式問題が2問出題されます。内訳は「土地」の問題が1問、「家屋」つまり建物あるいは区分建物からの出題が1問です。書式問題は減点方式で採点されるため、正確に作図や求積ができるか、また2時間30分という試験時間を考えると、「正確かつ迅速に」答案を作成できるかどうか、が合格の大きな決め手となります。

本学院では、まず書式の基礎をしっかりと身につけ、続いて演習をとおして短時間で合格レベルの実力を効果的に養成します。

### POINT 1 短期合格を目標に、計画的に講座を選択

各人の生活状況に合わせ、受験準備期間を1年に設定し、計画性と集中力で、できるだけ短期合格をめざしましょう。無計画に何度もやればよいという姿勢は捨てることです。計画を持たずと講座の選択と組み合わせも決まります。

### POINT 3 過去問研究は必要不可欠

**敵を知らずして合格を手中に入れることは難しい!**  
過去問演習は、合格へ直結する大事なステップですから、過去の出題傾向と問題文の表現スタイルを熟知しておきましょう。「過去問は繰り返し出題される」。資格試験においては定番のこの言葉は、土地家屋調査士試験においても当然あてはまります。繰り返し出題されている論点は確実に理解し、得点力アップを図るようにしましょう。

### POINT 2 基本を重視

**暗記に頼らず、理解 正確な知識 応用力養成 と着実にステップアップ!**  
基本的な内容の問題での失点は、ダメージが大きいです。また、基礎があいまいだと、応用力は望めません。基本書は、繰り返し読みましょう。1回目で全てを理解できなくても、先に進み2回目、3回目で理解を深めていけば良いのです。3回目あたりから条文を照合させ、かつ法体系を立体的に理解することが大切です。択一であっても、機械的な暗記では対応できません。

### POINT 4 本試験問題に近い良問を用いた学習が効果的

**実戦答練・公開模試を活用する**  
出題傾向から離れた学習をしても、効果的ではありません。受験指導校の専門家グループが厳選した予想問題を活用し、最短合格をめざしましょう。これらの講座への出席は、本試験前の重要事項の確認・応用力の養成・答案作成のテクニックの総点検を行うことができます。また、添削・講評・成績データは、客観的自己評価に役立ちます。



# 通学講座

## ● 初心者にも納得できる「理解型」講義

初めて土地家屋調査士試験をめざす初心者の方は、最初は専門的な用語・条文の言いまわし等に戸惑い、難しく感じるかもしれません…。しかし、初心者の方がこの細かな知識をいきなり学習しても、ただ混乱するだけで決して良い結果は得られません。

法律が設けている「制度」の意図や考え方を身近な例を挙げながら説明し、この土台となる骨組みの上に、試験で問われる細かな知識を体系的に積み上げていく、これが本科講座です。だから、初心者にもムリなく理解・納得が得られるのです。

法改正にもすばやく対応

## 本科クラスの特徴

## ● 何よりも、生講義だから「短期合格」ができる !!

土地家屋調査士試験は、出題範囲が限られており、出題される重要事項は限定されていると言っても過言ではありません。そして、どれだけ正確にかつ効率よく学習できるかが大きなポイントとなります。基本的には、択一にしても、書式にしても重要ポイントを確実に理解する以外、その克服法はありません。本試験に必要な知識は、基本書を読んでノートをまとめる程度の理解とは違うものです。いかにスムーズに知識を吸収するか、つまりコツコツと学習することが合格への最短距離になります。まずそのためには、学習の継続性ということが、1番のテーマとなります。そして、土地家屋調査士試験に必要な科目をこなすには、やはり、要領よく学習することがポイントとなってきます。

本科講座は、これまでの試験傾向を分析し、

土地家屋調査士試験に必要な科目の重要事項を抽出している。

各法律の専門用語・基本的な事項をわかりやすく説明し、全体構造の理解を第1の目標に体系的な知識の定着を図っている。

次に、その知識を掘り下げ、合格に必要な応用力をムダなく確実に身につけるなど、短期合格を分析・研究した結果を、フルに盛り込んだ本格的初學者向け通学講座なのです。



高実績と信頼 大人が選ぶ LICENSE SCHOOL  
**東京法経学院**

最寄りの各校へお気軽にお電話ください。

東京本校 / 通信教育 03-3371-2741	大阪校 06-6373-1401
名古屋校 052-583-1161	福岡校 092-751-5866



# 通信教育

『通学する時間がない!.....』  
『近くに指導機関がない!.....』  
という方には、通信教育をおすすめいたします。ご都合に合わせて選択してください。

選べる学習  
**3タイプ**

## 教材タイプ

教材のみ

DVD付タイプ

教材+DVD

ダウンロードタイプ

教材+MP4データ

レクチャー

解説講義

**内堀 博夫** (本学院専任講師)

調査士をめざすならやっぱり「東京法経学院」!!

土地家屋調査士 合格データベースによる

# 最短合格講座

通信教育

初めて学習する人を合格レベルまで養成し、一気に合格圏へ!

## ● 指導コンセプト

土地家屋調査士試験に合格するためには、基本的な知識を正しく身につけることが必要となります。しかし、それは口にするほど容易なことではありません。

大方の受講生にとって、試験内容は、どの科目にしても初めて学習するものばかりで、全く新しい知識をどのように把握すれば良いのか、不安に思われることでしょう。独学で学習していると知らず知らずにスランプに陥ったり、試験傾向から離れたりしてどうしても突破できないハードルの数が予想以上に多く、それが学習の妨げとなる場合があります。そこで、そういったハードルをクリアできるように、分かりやすく、かつ楽しみながら学習できるよう、さまざまな工夫を凝らしたオリジナル教材群を活用し、ムリ、ムダなく短期間で合格できる実力を身につけていただく講座が「合格データベースによる土地家屋調査士最短合格講座」なのです。

土地家屋調査士最短合格講座は、過去40年間の本試験問題の選択肢を条文ごとに整理した「合格データベース」に基づき、本試験で要求される知識範囲を正確に把握することで、労せず、短期間で合格を実現する、受験生待望の画期的な通信教育です。また、「合格ノート」に基づいたビデオテープ講義を併用することで、さらに効率の良い学習が可能となり、通学できないハンディを全く感じることなく本格的な学習を進めることができます。

通信教育 土地家屋調査士 最短合格講座

いつからでも どこでも 何回でも

# DVD学習の特色

## 5つのメリット

**1** 本試験に精通した講師だから教え方が違う!!

**2** 通学生に近い臨場感で学習できる!!

**3** 理解できなかった重要ポイントも再度見ることができる!!

**4** 講義の進行に合わせた提出課題を解答することで理解度チェック!!

**5** 反復学習で不得意分野を完全攻略できる!!

## 効果的な学習の進め方

「学習の手引き」で試験の概要と本講座のシステムを確認する  
教材が到着したら、いよいよ学習のスタートです。まず最初に、「学習の手引き」で、土地家屋調査士試験の概要を把握し、自分なりの学習プランを設定します。

「合格ノート」で基本知識の習得を図り、試験範囲の全体像を把握する  
学習プランを立てたら、本格的な学習を開始します。短期合格を実現するためには、まず、学習項目の全体像を把握する必要があります。そのためには、基本書である「合格ノート」をひとつとより精読し、アウトラインをつかみます。次に全体の流れを念頭においたうえでひとつひとつの項目を時間をかけて熟読します。

「合格データベース」で理解度チェック  
「合格ノート」の精読が終わったら、「合格データベース」で基本事項の理解度をチェックします。間違えた箇所については、必ず「合格ノート」で確認し、マーカーで印をつける等のチェックをしておきます。

「提出課題」で本試験レベルの総合力養成を図る  
上記の学習が終了したら、「提出課題」を解答し、本学院に答案を提出します。添削された答案は、学習進行度の確認のために重要な役割を果たします。なぜ間違えたのか、その理由を明確にし、二度と同じ間違いをしないようにしておきます。

疑問点は「質問票」で即解決  
学習の途中でどうしても理解できない箇所や疑問点については、質問票を利用すれば、効率のよい学習が行えます。



# 東京法経学院の特長

### 個別相談

東京法経学院では、これから資格試験の受験をお考えの方に対し、無料入学説明会を実施しています。お気軽にお電話のうえ、ご来校ください。  
遠隔地で各校にご来校いただけない方には、お電話、FAX、E-mailによる受験相談も行っております。

### 振替出席制度

本学院の通学講座は、複数のクラスを開設しておりますので、万一、お申し込みのクラスに出席できないときは、手続なしで別のクラスへの出席が可能です。  
振替受講は初学者講座(本科)に限り、詳細は各校までお問い合わせください。

### 自習室

「自宅ではなかなか集中して学習を進めることができない」、「学習のためのスペースがほしい」という方のために、講義以外の時間でも自習室を使って学習をすることができます。  
曜日によって空室がなく、自習室をご用意できない場合がございます。あらかじめ各校にご確認ください。

### 無料体験入学制度

「講座受講を考えているけど、実際の講義を聴講したい」とお考えの方のために、授業の無料体験入学を実施しております。ご希望の方は、事前にご予約をいただいたうえでご来校ください。  
通学講座については、開講日の聴講をお勧めします。  
通信教育につきましては、各校にて教材見本(テキスト等)をご覧いただくことができます。



### 通信教育

勉強をしたいが通学することができない方、お近くに通学する学校がない方、フリータイムを活かして資格を取りたい方、マイペースで学習したい方...などに最適な通信教育。本学院は、昭和36年の創立以来、研究を重ねたノウハウと、受験生一人一人に合わせたきめ細かい指導で、多数の合格者を輩出してきた実績を持っています。  
詳細は、各校事務局にお尋ねください。

### 本試験に精通した講師によるフォロー体制

東京法経学院の土地家屋調査士講座は、試験対策に精通した経験豊かな講師が担当しています。このため、講義に対する疑問・質問・相談にも的確にお応えします。  
通信教育を受講されている方は、質問票で質問・疑問に的確にお答えいたします。

### 欠席者フォロー制度

本学院の通学講座(初学者クラス)は、ビデオ収録を行っています。講義に出席ができなかった場合には、この収録されたビデオで学習を進めていただくことができます。  
ビデオは、本学院のビデオ室でご覧いただけます。そのためビデオデッキの台数等の関係上、予約制となっております。

### 最新有力資格情報の提供

本学院は、法律に関する出版物を発行する出版業を併せて行っております。そのため、有力資格取得をめざされる方のための受験情報をいち早くお伝え出来るように受験雑誌のベストセラー「月刊不動産法律セミナー」をはじめ多くの書籍を発行しています。  
もちろん受験生の一番気になる法改正情報もご提供しておりますので、安心して学習に取り組むことができます。  
また、多くの受験指導校がある中で、本学院では受験の必須書である「六法」を用途に応じて発行しております。これも、法律に関する出版物の発刊をしている本学院だからこそできることなのです。



Home Page URL

<http://www.thg.co.jp/>

資格に関する情報から、本試験合格のための情報・出版案内・通信・通学の学校案内など受験生のための情報をいち早く公開しております。また、学習相談コーナーでは、皆様のお声をお待ちしております。



なお、E-mailでもご意見・お問い合わせ・ご相談の他直接宅配サービス等のお申込みも受け付けております。

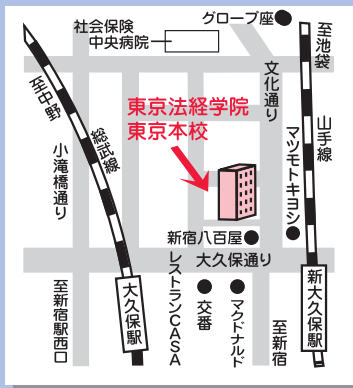


[info@thg.co.jp](mailto:info@thg.co.jp)

## 最寄りの各校へお気軽にお電話ください。

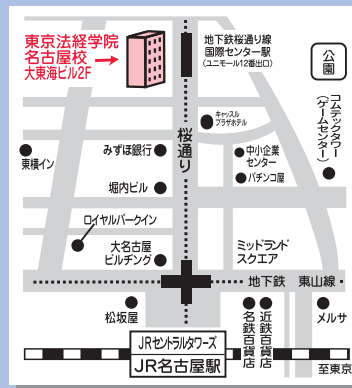
東京  
通信  
教育  
本校

〒169-8505  
東京都新宿区百人町2-9-13  
TEL 03(3371)2741(代)  
FAX 03(3360)1724  
●新大久保駅2分



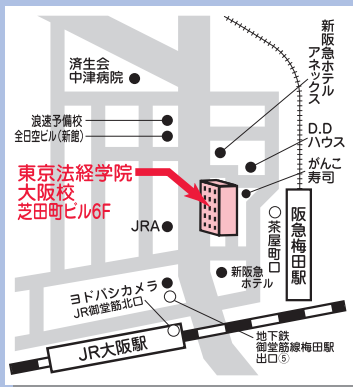
名古屋校

〒450-0002  
名古屋市中村区名駅3-22-8 大東海ビル2F  
TEL 052(583)1161(代)  
FAX 052(583)9588  
●名古屋駅7分



大阪校

〒530-0012  
大阪市北区芝田1-4-14 芝田町ビル6F  
TEL 06(6373)1401(代)  
FAX 06(6373)1405  
●梅田駅2分



福岡校

〒810-0003  
福岡市中央区春吉3-21-21 春野ビル3F  
TEL 092(751)5866(代)  
FAX 092(771)6735  
●天神駅3分

